

## 2015年度 事業報告 (案)

### 1. グッド・トイ選考事業

担当理事: 善本眞弓

グッド・トイ 2015 として 34 点選定

新選定玩具の体験イベントを支部とともに 8 カ所で実施



5 月 17 日にグッド・トイ 2015 最終選考会が行われ、34 点が選定された。選考会は、定量的評価と定性的評価の組み合わせなどの昨年度のやり方に加え、冊子選考会時により多くのおもちゃコンサルタントが投票しやすいよう、冊子製作に力を入れた結果、投票率は前年度比で約 30%増加した。

また、グッド・トイの普及啓蒙を推進するために、新選定玩具で遊び、その魅力を体感できる場「グッド・トイ cafe」を新たに始め、支部の協力のもと、全国計 8 カ所で実施した。

### 2. 移動おもちゃ美術館事業

担当理事: 曾我部晃

開催数が前年度の2倍に

全国各地の43カ所で開催

2015 年度の開催回数は過去最高となる 43 回となった。昨年に引き続き、主催者の多様化、規模の拡大化、継続した開催等が特徴である。近年の開催増にともなうキャラバンセットのメンテナンス、リニューアルなど、今後持続可能なキャラバン事業になるように着手を開始した。また昨年度東京おもちゃ美術館監修で制作された西栗倉キャラバンセット及び宮崎キャラバンセットの積極的活用も行っており、特に前者は西日本を中心に、5 回の出動があった。

「まちと森林をつなぐ木づかい全国キャラバン」の中で行われる「木づかい」体験イベントに対し、木育キャラバンの開催などで企画協力を行った。全国 8 ヶ所で開催され、合計で 5,000 名を超える来場者があった。



### 3. 子育て・世代間交流事業

広場セット内容の拡充を実施

乳幼児玩具とタペストリーを整備し好評

#### ①子育てサロン「おもちゃの広場」 担当理事: 石井英子

北海道から沖縄県まで、年間 700 回以上の「おもちゃの広場」が開催された。第2回となる「おもちゃの広場交流セミナー」も 1 月 9 日に開催。おもちゃの広場タペストリーの配布、乳幼児おもちゃの無償貸与を全国の開催者に向けて配布。共有が難しいおもちゃを各開催地に届けた。



#### ②東京おもちゃまつり 担当理事: 多田純也、曾我部晃

開催日: 10 月 17、18 日

会場: 東京おもちゃ美術館+四谷ひろば

過去最高の 80 組以上のおもちゃコンサルタントが出展。1 日目には「おはようにつぼん」(NHK 総合)の生中継が入った

こともあり、多くの方に来場いただけた。また同時開催の「森の恵みの子ども博」では、ほぼ全ての出展者がウッドスタート自治体及び企業であるという明確なコンセプトを打ち出すことができ、木育事業の広がりを来場者に体感していただけた。

#### 4. 病児の遊びとおもちゃ委員会

担当理事：二瓶健次／荻須洋子

10の病院でのべ500日以上活動を行う

セミナーは次の10年に向けて歩み始める

##### ①院内ボランティア活動

国立成育医療研究センターおもちゃライブラリー、神奈川県立こども医療センター、千葉大学医学部附属病院、中川の郷療育センター、杏林大学医学部附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、愛育病院  
他で病児の遊びとボランティア活動を継続している。登録おもちゃコンサルタント49名、のべ活動日数563日であった。



##### ②ホスピタル・トイ・キャラバン

病院専用の移動型おもちゃ美術館を実施。(支援:アステラス製薬株式会社 フライングスター基金)

9月8日 大分県立病院

11月8日 福島県公立相馬総合病院

12月1日 埼玉医科大学国際医療センター

##### ③セミナー

昨年に引き続き年3回目のセミナーの開催を行った。3月のセミナーはこれからの10年を考えるセミナーとなった。

11月15日 「ボランティア向けスキルアップセミナー」 会場:東京おもちゃ美術館

11月29日 「第2回 病児の遊びとおもちゃケア in 沖縄」 会場:沖縄小児保健センター

3月6日 「第11回 病児の遊びとおもちゃケア」 会場:国立成育医療研究センター講堂

逢坂恵理子氏(横浜美術館館長)による講演、活動報告、ワークショップなど

#### 5. おもちゃの専門家育成事業

担当理事：稲葉恭子

会員協力により地方開催、大幅増  
より楽しく活動につながる学びの場へ

##### ①おもちゃインストラクター養成講座

認定者数:2,921名 (78会場にて開催)

従来の保育系大学・短大での開催以外にも、芸術系の大学や教育委員会、社会福祉協議会などからも依頼を受け実施。次年度以降も継続的な開催が見込まれる。また全国の会員の協力のもと、愛媛、富山、熊本など18ヶ所で新規開催を行った。今後も社会人の受講を増加させ、幅広い年代層へのおもちゃを学ぶエントランス的役割を果たす。



##### ②おもちゃコンサルタント養成講座 申込者数 通学の部 140名 通信の部 91名

カリキュラムの充実を図るとともに、受講生の交流の場をしっかりと持つことで、受講後のつながりを強化し、資格取得後も様々な活動が行えた。また、通信の部では、レポート添削をおもちゃコンサルタントマスターに依頼しており丁寧な添削が好評を博している。おもちゃコンサルタントマスターの存在を身近に感じてもらい、修了後の活動をイメージしてもらうことを期待している。

##### ③おもちゃコンサルタントマスター養成講座

開催日:2月6、7日 会場:東京おもちゃ美術館

多数の受講申込があったため書類選考を実施し 10 名が受講、認定された。「おもちゃを通じた地域活動のリーダーの養成」を目的とし、研究成果の発表の実施によって、より質の高いマスターの養成に努めた。

## 6. 出版・編集事業

担当理事：菊池貴美江

グッド・トイガイド発行 7 万部

おもちゃ選びの参考になるよう各地で配布

新たに選定された「グッド・トイ 2015」計 34 点及びこれまで選定された玩具からピックアップしたおもちゃを掲載した『グッド・トイガイド』を 12 月に発行。会員への配布とともに東京おもちゃ美術館館内や各種イベント会場などで配布を行っている。なお、『おもちゃで遊ぼう』第 21 号は、2016 年 7 月発刊予定である。

＜出版物＞

『グッド・トイガイド 2015-2016』

発刊：12 月 18 日 発行部数：7 万部（フリーペーパー）



## 7. 地域グッド・トイ委員会/活動支援

支部活性化のためにスタッフを派遣

各地での動きをサポートに力を入れる

全国各地にいる会員の活動を支援するために、資格取得者の活躍の場を増やすこと、会員間の交流・活動促進を目的に、以下の内容を行った。

### ①支部活動

今年度は、新たに秋田、福井において、それぞれおもちゃコンサルタントマスターである会員主導のもと、支部が誕生した。秋田では、秋田県内のイベントへの積極的参加や、理事長の講演会を企画するなどの活動が行われた。福井でも定例会を行うだけでなく、グッド・トイカフェ（1. 選考事業参照）を開催するなど、積極的な活動が行われている。



### ②おもちゃコンサルタントお仕事チームの発足

当法人へ届く依頼（園や学生への研修、親子向けワークショップの開催、イベント実施など）について、事前に登録したおもちゃコンサルタントにwebを通じて情報提供する仕組みを発足させた。現在は、全国各地のおもちゃコンサルタント 130 名が登録。26 名の資格取得者が、商業店舗、こども園、マンションのモデルルームなどでワークショップやおもちゃの広場などを有償で行った。

### ③地方会員の交流の場の積極的活用

地方でのおもちゃインストラクター養成講座等の開催のために理事や会員あるいは事務局スタッフが赴いた際に、特に支部のまだない地域において積極的に地方会員との研究会や交流会の場を設定した。広島、山口、島根、愛媛などで開催。

### ④沖縄スタディツアー

沖縄県国頭村に開館した姉妹館「やんばる森のおもちゃ美術館」（運営：国頭村森林組合）の訪問をメインとしたスタディツアーを 5 月 29～31 日に初開催した。森や海の生態を体感するプログラムや、おもちゃコンサルタントが病児の遊び支援活動を行っている沖縄県立南部医療センター・こども医療センターへの訪問のほか、国頭村長をはじめとする地元の方々との大交流会など、1 都 13 県から集まった 34 名の参加者とともに学びを深めた。

本年度も入館者数の記録を更新

ロシアの企画展は 400 体のマトリョーシカが並ぶ

### ①概況

年々入館者数が順調に伸びる一方で、「赤ちゃん木育ひろば」混雑による満足度の低下防止及び事故リスク減のため、入館者数を抑える方策が必要であるとの認識から、2015 年 6 月 1 日より入館料を改定し、大人料金の 100 円増額、子ども料金の対象を 6 ヶ月からとした。と同時に「赤ちゃん木育ひろば」の開館時間延長や、さらなる安全対策の強化などを行い、来場者のニーズに応える努力を行った。

料金改定に伴う入館者数の低下が懸念されたが、入館者数は昨年度よりも増加した。また、入館者増にも関わらず一時は足の踏み場もないほどの入場数だった「赤ちゃん木育ひろば」内も若干の余裕が生まれ、当初の目的に対して一定の成果が見込めた。

また、「赤ちゃん木育ひろば」の無垢のスギ床の研磨、「おもちゃのもり」の一部展示、受付カウンターの全面改装などのリニューアルも実施した。



### ②入館者数

| 年間入館者数    | 年間入館者数    | 前年度比 |
|-----------|-----------|------|
| 2015 年度実績 | 144,056 名 | 5%増  |
| 2014 年度実績 | 136,747 名 |      |

### ③ボランティア（おもちゃ学芸員／赤ちゃん木育サポーター）

- ・おもちゃ学芸員 登録者数 308 名 活動延べ人数 3984 名
- ・赤ちゃん木育サポーター 登録者数 98 名 （登録人数はどちらも 2016 年 3 月現在のもの）

より多くのボランティアスタッフが継続して、かつ誇りをもってボランティア活動ができるように、館内イベントの充実、独自の研修会の開催等を行った。また新たに「アナログゲームの会」がおもちゃ学芸員自らの提案によって発足。その他、手作りの会のメンバーによる、初のワークショップ開催も大盛況だった。特に館内イベントでは、すでに 20 のイベントが生まれ、「おもちゃ舞台」を中心に日々パフォーマンスが行われている。



### ④ 企画展

- 「マトリョーシカとロシアの玩具展」 4 月 11 日～9 月 27 日
- 「木のおもちゃ 20 作家展4」 10 月 9 日～12 月 25 日
- 「マトリョーシカとロシアの玩具展2」(再展示) 1 月 8 日～4 月 3 日



岐阜に県立ミュージアム建設計画

自治体、企業に加え、園もウッドスタート宣言

### ①林野庁補助事業

今年度も林野庁補助事業「新たな木材需要創出総合プロジェクト事業」のうち「地域材利用促進」のうち「木づかい・森林づくり活動の全国的な展開」のうち「(1)木づかい運動を促進するための総合的普及啓発」の「木育活動支援」を申請し、受託し下記事業を行った。

#### ○木育イベント事業

- ・木育キャラバン及び森のおもちや美術館の開催(前掲)
- ・森のめぐみの子ども博の開催

10月17日・18日の東京おもちゃまつりと同時開催。日本全国から国産材を活用した木製品が集結し、子ども向け木製品の見本市としては日本最大規模の開催となった。特に今年は、出展者のほぼすべてウッドスタート宣言をした自治体・企業となり、木製品を販売するだけでなく、ワークショップ等を通して、日本の森や林業のことを伝えられる機会となった。

- ・木育円卓会議の開催

下記7箇所で開催された。今年度は、市町村単独での会議もさることながら、県単位での開催、保育園等による開催、自治体と企業の連携による開催など、円卓会議も多岐にわたり、それぞれ大きな成果を得ることができた。

開催地: 福井県／福岡県八女市／熊本県／滋賀県／埼玉県ときがわ町／富山県氷見市／長野県信濃町

- ・第3回木育サミットの開催

初の地方での開催であったが、参加者は全国各地から600人を越え、これまでの最大規模となった。開催地である長野県及び塩尻市ならではの報告も多数あり、地方色を出すことができた。さらには、ワークショップセッションを新設、特色ある14の分科会に分かれ、それぞれ少人数、双方向性の討論ができる場となり、好評を得た。

日程: 3月11日 会場: レザンホール(塩尻市文化会館)大ホール他

基調講演 今井敏氏(林野庁長官) 特別講演 C.W.ニコル氏(作家・ナチュラリスト)

#### ○木育インフォメーション事業

総合情報サイト「木育ラボ」を運営し、木育の総合サイトとしての充実を図った。

#### ○木育人材育成事業

- ・「木育インストラクター養成講座」の開催

地域での木育の推進力となる人材を育成するための養成講座を10回開催した。

開催地: 北海道斜里町、東京都新宿区、岐阜県美濃市、三重県四日市市、大阪府大阪市、島根県松江市、高知県高知市 他

- ・「森の恵みの保育環境セミナー」の開催

日程: 8月8日 会場: 東京都庁 都民ホール

保育環境の中に地域材を取り入れ、木育の活動を推進していくために、その意義や具体的なプログラムを学ぶための研修セミナーを東京都森自園で木育推進を行おうとしている保育関係者が約200名参加。木育実践報告や木育の効果、ウッドスタート宣言を行うための手順などについて、話し合われた。

#### ○木育ネットワーク化事業

- ・木育ゼミナールの開催

木育先進地域のキーパーソンの交流の場を設けることで、さらなる地域での木育推進の起爆剤とすべく、「あそび」「まなび」「くらし」の3回のテーマで勉強会を開催した。なおその総まとめとして上記「木育サミット」を位置づけ、体系的な研究、発表の場として、木育の理論化に寄与できるようにした。

## ②ウッドスタート事業

ウッドスタート「自治体100×企業100プロジェクト」を推進し、誕生祝い品制度の導入を軸として、ウッドスタートを普及させている。具体的には以下の通り。

### ○ウッドスタート宣言

下記の企業及び団体が年度内にウッドスタートを宣言。誕生祝い品制度の導入や子育て支援施設の設置及び木質化を行った。また、ウッドスタート推進園制度を8月より開始した。

【自治体】埼玉県ときがわ町／神奈川県小田原市／福島県国見町／  
広島県府中市／富山県氷見市／長野県信濃町

【企業】パルシステム東京／株式会社長谷萬／インフォテリア株式会社／認定 NPO 法人 NEXTEP／株式会社 GRIP`S

【保育園等】めぐみこども園(福井県)／美濃保育園(岐阜県)／もあなキッズ自然楽校(神奈川県) 他

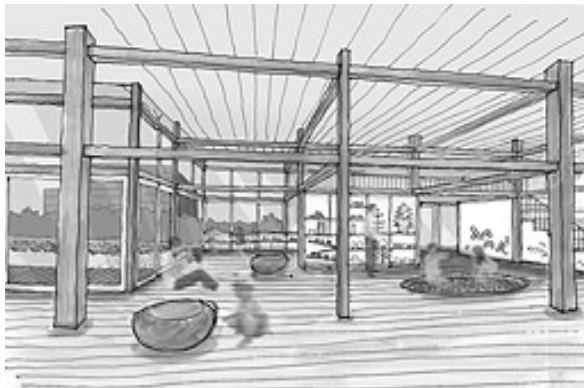


### ○赤ちゃんサロン木育化事業

保育園、幼稚園、子育て支援センター、美術館、博物館など、子どもたちが過ごす場所への地域材の活用、木育の取組の推進、人材養成等に関して、積極的に監修、関わりをもっている。具体的には以下のような取組を行った。

#### 【自治体】

・岐阜県：県立木育おもちゃ美術館 設立準備の開始



岐阜県より、現在県立美術館などがある岐阜市内の文化エリアの整備構想の一環として、木育拠点施設「ぎふ森の恵みのおもちゃ美術館(仮称)」を建設したい旨打診を受けた。2016 年度より整備に着手し、開館は 2018 年以降。運営は、県直轄ないしは県からの委託先が行う予定。当NPOは、デザインやボランティア研修等の総合監修を行い、開館後は姉妹館として運営のアドバイスなど、全面的に協力をする計画である。

・秋田県由利本荘市：旧鮎川小学校の校舎を利用した「おもちゃ美術館」設立計画への関わり

・山形県南陽市：南陽市文化会館の木育ひろば監修 (2015 年10月OPEN)

・東京都豊島区：「パパママ☆すぽっと」の設立計画への関わり

・長野県信濃町：子育て支援センター「なかよし」の監修 (2016 年 3 月OPEN)

・静岡県：ふじのくに地球環境史ミュージアムのキッズルームの監修 (2016 年 3 月OPEN)

・宮崎県日南市：子育て支援センターの監修

・鹿児島県長島町：多世代交流施設の監修

・沖縄県国頭村：姉妹館「やんばる森のおもちゃ美術館」のスタッフと交流及び運営面での監修

#### 【企業】

・良品計画：木育広場の設置及びおもちゃコンサルタントの木育広場への派遣による木育普及事業を展開

・サミット : 木育おもちゃセットの配布(中野区内の子育て支援グループ等に木育玩具を寄贈)

・GRIP`S : 9 月に滋賀県内にあるドコモショップ栗東店、能登川店にびわ湖材及び滋賀県産材を活用したキッズコーナー「Wood Cube」を設置。滋賀県も全面的にバックアップしている。オープン以来、スマホの普及による待ち時間の長期化への対応として、大変評判が良い。

- ・総合地所：3月にマンション「ルネ蘇我」共用部分にキッズルームを設置。
- ・三井不動産：10月に神奈川県「ららぽーと海老名」内に、当NPO監修でキッズプレイエリア「Wood Egg(ウッドエッグ)」、「Wood Cube(ウッドキューブ)」を設置。同社企業林の間伐材及び国産材を活用した。



## 10．東日本大震災被災地支援「あそび支援隊」

担当理事：多田千尋／多田純也／曾我部晃

福島を中心に支援

飯舘村と相馬市でミニキャラバン

### ① 飯舘村・木育キャラバンの実施及びウッドスタート支援

今なお全村避難を強いられている福島県飯舘村への支援を引き続き行った。10月31日・11月1日の飯舘村文化祭において、4年連続で「ミニ木育キャラバン」を開催。多数の村民の参加を得た。また福島市内に設立された飯舘村立の子育て支援センターもくもくにおいて、1月23日にはおもちゃコンサルタント土屋高志さんの「てんたん人形劇場」の公演、2月13日には多田純也理事の「たたじゅん企画」の公演を行った。

また昨年度に引き続き、福島県南相馬市でのホスピタル・キャラバンも実施し、被災地の病児へのおもちゃ・遊び支援も行った。

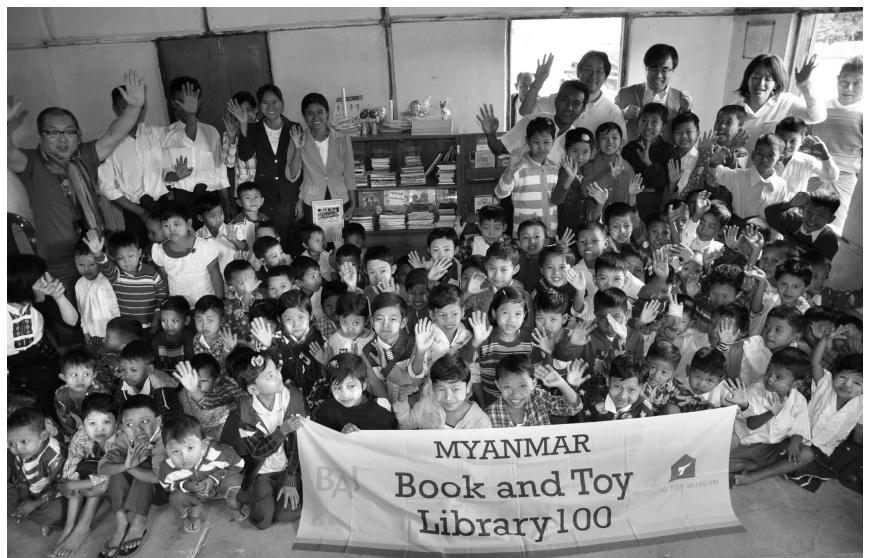
#### （活動支援金について）

A:2014年度からの繰越額 526,479 円      B:2015年度収入 0 円  
C:2015年度支出 93,634 円      ⇒ 次年度への繰越額 432,805 円 (A+B-C)

## 11. その他

### ① ミャンマー教育支援「ミャンマーBOOK&TOY ライブラリー100」

認定NPO法人ブリッジ・エーシア・ジャパン(BAJ)との協働プロジェクト。児童向け図書約250冊とおもちゃ約20点が詰まったミニライブラリーを製作し、ミャンマーの小学校へ寄贈を開始した。2016年～18年の3年間で100校への寄贈を目指す。ミャンマーへ、日本国内から唯一直行便を飛ばすANAは、被災地の材でオリジナルおもちゃを製作、特別支援学校の生徒が囲碁盤を製作するなど、様々な企業・団体から協力をうけている。



第一弾の寄贈を行うため1月25日～

28日にミャンマーへ訪問。聾学校、寺子屋小学校など計5校で寄贈式及びワークショップを実施。おもちゃコンサルタントマスターの他、プロの囲碁棋士である安田九段らも同行した。今後の寄贈は、BAJが雇用するミャンマー人スタッフが随時学校を訪問し寄贈を行っていく。

## ②台湾・香港との交流

台湾玩具図書館協議会と連携をしながら、台湾での移動おもちゃ美術館事業の開催に向けての可能性を探るため、5月、11月に現地視察、講演活動を実施した。また11月の現地視察をきっかけに交流がはじまった香港浸会大学とのインターンシップ事業について、検討を開始した。

## ③受賞

「ウッドデザイン賞 2015(新・木づかい顕彰)」 林野庁長官賞(優秀賞)

・ハートフルデザイン部門「ウッドスタート」

・ライフスタイルデザイン部門「ららぽーと海老名・ウッドキューブ」

(大建工業株式会社、パワープレイス株式会社、三井不動産株式会社と共同受賞)

